



環境保全型農業推進 コンクール受賞者訪問

今回は、第13回（平成19年度）環境保全型農業推進コンクールで優秀賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）を受賞され、現在も有機農業に取り組んでいる有限会社あぐり事業部長大森孝宗さんを訪ねて、農業の状況・課題等についてお話を伺いました（平成30年9月訪問）。

有限会社 あぐり

取材者名：大森 孝宗 氏（事業部長）

所在地：愛媛県伊予郡松前町北川原

取組分野：有機農業

（受賞時の経営内容）経営面積：43ha

うち水稲 35ha

うち野菜 8ha

構成員 2名



有限会社 あぐり 事務所

○現在の経営状況についてお聞かせください。

平成20年度以降の経営耕地面積は、50ha前後で推移しています。（2016年52.3ha）2016年12月時点の賃貸借契約は、2市1町で、耕作地413か所、貸し主は198人となっています。

また、これ以外に作業受託で、代かき・田植1.7ha、除草0.7ha、耕耘2.1ha、稲刈7.0ha、乾燥・調整35.9トシ行っています。現在の従業員は、役員2名、グループ企業からの出向者5名、営農アルバイト6名、出荷作業パート4名、水稲作業臨時出向者12名で頑張っています。



水稲除草作業（7月）

○19年度に受賞されてから、新たに取り組まれたことは何かありますか？

平成21年に松前町がバイオスタウン構想を策定したことに呼応して、町内一般家庭から排出される剪定枝等を堆肥化して農業に利用する取組を始めました。

現在は、900トシ以上の堆肥や一部家畜の敷料として、活用しています。

また、有機質肥料発酵促進の過程で自社培養有用微生物群を活用するほか、水稲新品種の栽培、土壌診断等の研究を大学、研究機関と連携して取り組んでいます。

少しでも有利な販売につなげようと、エコえひめ（愛媛県特別栽培農産物等認証制度）を取得、スーパー・百貨店等の専用コーナーで販売しています。現在の販売先は、県内23店舗、県外5店舗と契約しています。



剪定枝由来の堆肥を農地に還元



（有）あぐりの野菜→

○農産物の生産拡大とともに、販売先の確保が重要と考えますが、どのような対応をされていますか。

販売先との契約で大切なことは、いかにして一定のボリュームを確保できるかということです。夏場、特に今年のような厳しい夏は、品揃えや量の確保が難しくなります。時には有機のトマトジュース等で売り場を充足したりしています。

また、生産者だけでは、作ることは出来ても運ぶこと、いわゆる物流がネックとなります。そこで、市場の仲卸会社をまじえて集荷・配達の一部を担ってもらうなど、お互いがWinWinの関係となるよう連携を図っています。

野菜の販売価格については、慣行栽培に比べ同価格～2割高程度となっております。



(有) あぐりのエコえひめコーナー

○起業されて18年経過しますが、建設業ならではの経験が役立ったことはありますか？

日頃から、建設現場において、大型機械を使って作業している社員が多いので、農業機械の操作については、ためらいなく入り込んでいます。

また、機械の修理についても、機械整備に長けている社員が多いので、農機会社がさじを投げた故障について、知恵を出し合い修理した時は、建設社員の頼もしさを実感しました。

元々、建設産業従事者の夏場の雇用確保対策として考えられたグループ部門ですので、あぐりがうまく回ることによって、本業の建設業にも好影響を及ぼすと信じています。



紙マルチによる田植え

○後継者の育成にも力を入れていらっしゃると伺っていますが、現在の状況をお聞かせください。

設立当初は、農協OBの指導を受けていましたが、全員、有機農業の実践は初めてのことであったので、試行錯誤の連続でした。現在は、有機農業技術の継承は出来ていると思っています。

また、幼児から高校生までを対象とした農作業体験や環境教育の実施することや、積極的に高齢者、障がい者、外国人留学生を受け入れることで、地域との結びつきが濃くなったと思っています。



小学生への体験学習

○今後の展望をお聞かせ下さい。

建設雇用との人員の関係を考えると、経営規模をこれ以上増やすことは難しいと思っています。

販売先についても、開拓を試みてはいますが、一筋縄にはいかない状況です。しかし、地域の後継者として頼られている以上、更なるブランド力・販売力の向上を目指して挑戦をしていきたいと思っています。